令和7年9月2日

令和７年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富士見小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和７年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和7年4月17日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問調査）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問調査）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	９７人	算数	９７人	理科	９７人
第５学年	国語	１１３人	算数	１１３人	理科	１１４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

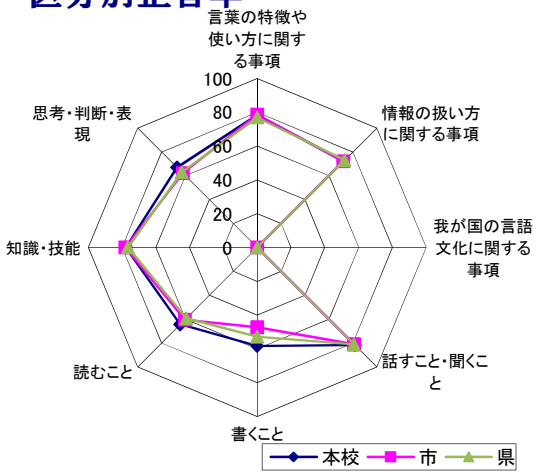
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富士見小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.5	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	72.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと･聞くこと	81.7	81.0	81.1
	書くこと	58.3	47.2	52.8
	読むこと	64.3	60.5	59.3
観点	知識･技能	77.8	78.0	76.5
	思考･判断･表現	67.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

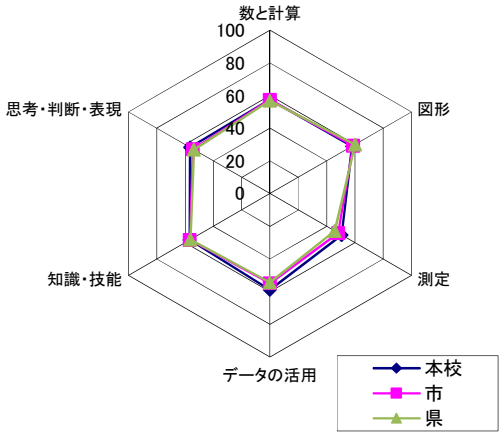
○良好な状況が見られるもの　･課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○本領域の正答率は78.5%で，県の正答率を1.6ポイント上回った。 ○「第3学年までに学習した漢字を正しく読んだり書いたりする」設問では，全ての問題で県の正答率を上回った。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読むことができる」設問の平均正答率は66.0%で，県の正答率を13.4ポイント下回った。	･今後も，漢字を読んだり書いたりする学習を繰り返し行い，定期的にミニテストを行うなど，定着を図っていく。 ･ローマ字の読みや書きについては，子音と母音の組み合わせでできていることをしっかり理解させるとともに，音と文字を組み合わせて考えられるようにクイズ形式で楽しく学習したり，タイピングの学習と組み合わせたりして定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	●本領域の平均正答率は72.2%で，県の正答率をやや下回った。	･意味調べ等で国語辞典を使用する機会を意図的に設定することで，国語辞典の引き方を実体験をもって理解できるようにしていく。
話すこと・聞くこと	○本領域の平均正答率は81.7%で，県の正答率と同水準だった。 ●「参加者の発言の内容をもとに，司会者の発言として適するものを選ぶ」設問の平均正答率は66.0%と低く，県の正答率と比較しても3.2ポイント下回った。	･国語だけではなく，他教科や朝の会･帰りの会等でも話し合う活動を取り入れ，話している内容を意識して話を聞くことを指導していく。
書くこと	○本領域の正答率は58.3%で，県の正答率を5.5ポイント上回った。 ○「指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる」設問の平均正答率は68.0%で，県の正答率を10.6ポイント上回った。 ●「2段落構成で文章を書くことができるかをみる」設問の平均正答率は35.1%で，県の正答率を6.6ポイント下回った。	･今後も，文字数や段落の数などを指定して，制限のある中で文章を書かせる活動の充実を図る。その際，自分の考えとその考えを支える理由や具体的な事例について分けて考えさせ，それを段落に分けさせるなど，段落の意味を考えさせながら書くようにしていく。 ･互いの文章を読み合い，評価し合う活動を通して，文章を見直す力，校正する力を育成していく。
読むこと	○本領域の正答率は64.3%で，県の正答率を3.8ポイント上回った。 ○説明文の読み取りにおいては，全ての設問で，県の正答率を上回った。 ●物語文の読み取りにおいて，「登場人物の気持ちの変化について，具体的に想像する」設問の平均正答率は56.7%で，県の正答率をわずか0.2ポイント下回った。	･物語文の指導では，登場人物の気持ちの変化を読み取ったり，場面の様子を具体的に想像したりする学習の充実を図っていく。その際，勝手に想像するのではなく，叙述を基に考え，他者の考えと比較しながら，妥当性の検討を行うことで，叙述を基に考える大切さに気付かせていく。

宇都宮市立富士見小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.5	57.4	56.9
	図形	58.0	58.7	60.1
	測定	50.5	48.1	45.7
	データの活用	58.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	56.8	56.6	56.2
	思考・判断・表現	56.5	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

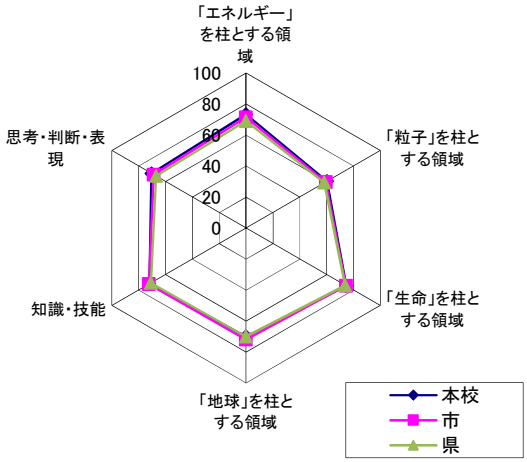
○良好な状況が見られるもの　・課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は，57.5%で，県の正答率を0.6ポイント上回った。 ○「2桁×1桁の計算の計算をする」設問の平均正答率は86.6%で，県の正答率を4.6ポイント上回った。 ●「2桁×1桁を計算する式を立てる」の平均正答率は26.8%で，県の正答率を4.2ポイント下回った。	・基本的な計算技能の向上を目指して，朝の学習などの時間を利用したり，宿題の内容を工夫したりして繰り返し練習問題に取り組み，習熟を図る。 ・授業の導入で既習事項の復習をする時間を設けたり，教室の壁面に授業の要点をまとめて掲示したりすることで，見通しをもって自力解決していける場を設定する。 ・数の構成や数直線など，数のいろいろな表し方に慣れさせる。
図形	●本領域の平均正答率は58.0%で，県の正答率を2.1ポイント下回った。 ○「箱の横の長さから球の半径を求める」設問の平均正答率は57.7%で，県の正答率を1.1ポイント上回った。 ●「二等辺三角形の性質を理解し，3つ目の頂点を見つける」設問の平均正答率は28.9%で，県の正答率を3.3ポイント下回った。	・実際に作図や操作活動を通して，形を捉えられるようにしていく。 ・図形を扱う際には，具体物を操作する活動を取り入れることで，図形を多面的に捉えたり，変形した後の図形をイメージしたりする力を身に付けさせていく。
測定	○本領域の平均正答率は50.5%で，県の正答率を4.8ポイント上回った。 ○「単位をそろえて2つの道のりの和を比べ，どちらの方が短いかを説明する」設問の平均正答率は59.8%で，県の正答率を8.1ポイント上回った。 ●「重さを，基準量のいくつ分かで考え，説明する」設問の平均正答率は42.3%で，県の正答率を3.4ポイント下回った。	・重さなどを測定する体験活動や，単位の仕組み・基準量の意味についてまとめたりする活動を通して，単位の変換や基準量での比較・目盛りの読み取りに慣れさせ，定着を図っていく。 ・習熟を図るために，プリントやドリル等で復習する機会を設ける等，宿題の内容を工夫する。
データの活用	○本領域の平均正答率は58.8%で，県の正答率を4.5ポイント上回った。 ○「二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える」設問の平均正答率は67.0%で，県の正答率を7.3ポイント上回った。 ○「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ」設問の平均正答率は43.3%で，県の正答率を0.7ポイント上回った。	・データを活用する学習の際には，クイズ形式やアンケート分析を行なったり，各グラフの傾向や特徴をまとめたりして，適切なグラフを選び出す力が身に付くように指導していく。 ・縦軸の目盛りに示された数値と数値の間が何等分されているかを考える活動を充実させることで，１目盛りの大きさに着目できるように指導する。 ・棒グラフや円グラフを用いた資料を作成して，データの傾向を表現する場を設ける。

宇都宮市立富士見小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.3	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	60.3	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.1	72.0	70.1
観点	知識・技能	71.9	72.5	70.9
	思考・判断・表現	70.5	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　・課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○本領域の正答率は73.3%で，県の値を4.2ポイント上回った。 ○電気，風やゴムの力など，観察・実験結果から因果関係を読み取る力がよく育っている。 ●音の伝わりについての設問では，正答率が53.6%で，学力が十分でない児童も見られた。 ●鏡ではね返した日光の集まりや重さと体積の関係の設問では，理解にばらつきが見られた。	・実験活動の中で，実験前と実験後の「比較」に注目させたり，関係性を言語化したりすることを繰り返し行い，知識の定着を図る。 ・複数条件が関わる現象，例えば光の重なりや体積と重さの違いなどでは，視覚的資料を活用した説明や学習のまとめ，振り返りを自分の言葉で書けるように繰り返し行い，知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○本領域の正答率は60.3%で，県の値をやや上回った。●粘土の重さと形，体積・材質による重さの違いの設問では，正答率が低く，かつ誤答の傾向に共通性があった。具体的な操作経験の有無が，理解に大きく影響していると考えられる。	・操作活動を伴う体験的な学習を充実させるとともに，結果と仮説の関係を言語化する力を育成するため，実験の手順や道具の扱いにも重点を置き，比較の視点を明確にした記録や振り返りを積極的に行う。
「生命」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は74.5%で，県の正答率を0.7ポイント上回った。 ○「ホウセンカが育つ順番に図を並び替える」の平均正答率は73.2%で，県の平均正答率を10.1ポイント上回っている。 ●「昆虫のあしがついている部分を選ぶ」設問では，平均正答率は81.4%で，県の平均正答率を2.7ポイント下回っている。 ●「クモが昆虫といえるかを述べた正しい文章を選ぶ」設問の平均正答率は57.7%で，県の平均正答率を4.0ポイント下回っている。	・大幅に県の正答率を上回る設問がある一方で，半数の設問が県の正答率を下回っているため，継続的に基礎・基本を押さて指導していく。 ・植物の観察を継続的に行い，観察記録を比較・分類・整理して説明する活動を充実させる。 ・昆虫の体のつくりでは，「○○と△△の違いは～」といった文構造で表現する練習を取り入れ，昆虫か昆虫でないかの仲間分けを適切に説明できるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は70.1%で，県の正答率と同等である。 ●本領域の設問の4問中3問は県の正答率を下回っている。 ○「太陽と日陰の位置関係と，日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ」設問の平均正答率は81.4%で，県の平均正答率を3.6ポイント上回っている。 ●「方位磁針の正しい使い方を選ぶ」の平均正答率は61.9%で，県の平均正答率を1.8ポイント下回っている。	・観察の際には結果の「読み取り」だけでなく，「なぜそうなるか」について根拠をもって表現する指導を行う。 ・方位磁針や温度計の正しい使い方を身に付けるために，用具の使い方について再度指導を徹底する。 ・観察記録やグラフ，図表を使って複数データから読み解く力を育成していく。

宇都宮市立富士見小学校 第４学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

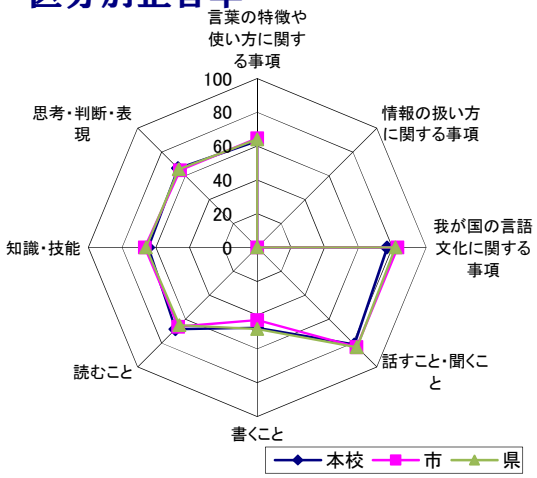
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

【家庭での学習】について
○「学校の宿題は，自分のためになっている」について，肯定割合が96.0%で，県平均（96.0%）とほぼ同等であった。また，「学校の宿題は，やりたくなる内容だ」については，肯定割合が46.5%で，県平均よりやや低めとなったが，一定数の児童が宿題に対して意義を感じていることがわかる。今後も，児童の興味・関心に応じた宿題の工夫を進めるために，「家庭学習の手引き」等を活用して指導・支援を継続していきたい。
○●平日の勉強時間について，1時間未満の割合は55.5%であり，県平均（57.7%）とほぼ同等である。その中でも「30分未満または全くしない」に限ると11.1%であり，県の値よりも6.4ポイント少なかった。一方，土日の学習時間において，「1時間未満または全くしない」児童は55.5%で県平均とほぼ同様であったが，「全くしない」は24.2%と高く，県平均を9.2ポイント上回っていた。このことより，児童は，平日はある程度家庭学習に取り組んでいるが，休日は学習に取り組む時間が少ない傾向があることが分かる。引き続き「ノーゲーム・ノースマホデー」や「家庭学習10分×学年」運動などを通じて家庭との連携を強め，学習内容の充実と週末学習のきっかけづくりを図っていくことで，家庭学習時間の確保を働きかけていきたい。
【学校での様子】について
○「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられている」設問については，肯定割合が81.8%で，県平均を2.7ポイント上回っていた。また，「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」設問についても肯定割合が高く，協働的な学びの実現が図られている。今後も，宇都宮モデルを基盤とした双方向の授業づくりを進めていきたい。
●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」設問について，肯定割合は67.6%で，県平均を9.5ポイント下回っていた。一方，「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」については，肯定割合が53.6%で，県平均を3.0ポイント上回っていた。これは，発表や対話に対する苦手意識のある児童が一定数存在し，自主的に話すことを躊躇してしまうことが考えられる。今後も，安心して発言できる雰囲気づくりや，発言の型を意識したトレーニング等の工夫に努めていきたい。
○「早ね，早起きを心がけている」設問の肯定割合は，81.8%で県の平均を3.8%上回っている。他の基本的な生活習慣についても，回答結果は良好で，家庭において適切な生活習慣を身に付けている児童が多いことが分かる。
【自分自身のこと】について
●平日の1日当たりのテレビや動画の視聴時間については，4時間以上と回答した児童が21.2%，平日の1日当たりのゲームの使用時間では，4時間以上と回答した児童が10.2%いる。長時間のテレビの視聴やゲームの使用が控えられるように，家庭でルールを決めたり，かわりに読書をしたりするなどの対応ができるとよい。また，学校でも下校後のよりよい過ごし方について，継続的に啓発を行っていきたい。
○「学習して身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」設問について，肯定割合は96.0%で，県平均を0.9ポイント上回っていた。日々の授業において児童の学びの意味づけを明確にし，学習と実生活とのつながりを意識づけている成果と考えられる。今後も，児童一人一人の将来像に応じた探究的な学びを促す授業づくりに努めていきたい。

宇都宮市立富士見小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	77.0	83.1	81.9
	話すこと･聞くこと	81.2	83.3	83.4
	書くこと	47.6	42.8	48.2
	読むこと	68.5	66.1	65.1
観点	知識･技能	64.4	66.5	65.9
	思考･判断･表現	66.4	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

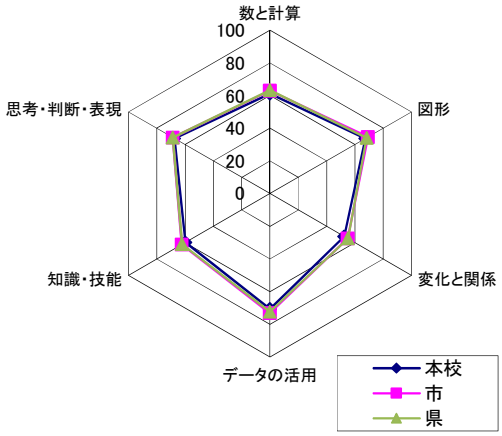
○良好な状況が見られるもの　･課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●本領域の平均正答率は63.0%で，県の正答率を1.1ポイント下回った。 ○気持ちを表す語である｢ほこらしい｣の意味を理解し，選択する設問の平均正答率は94.7%で，県の正答率を3.4ポイント上回った。 ●｢熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ｣の平均正答率は25.7%で，県の正答率を12.8ポイント下回っている。	･感情を表す語句を普段の生活で使いながら学ぶことを意識し，文章の中で活用する学習へとつなげていく。 ･熟語の理解について，図解や言語活動を通した学習を反復して行うことで定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざの使い方を理解し，｢ちりも積もれば山となる｣を正しく使っている文を選ぶの平均正答率は，77.0%で，県の正答率を4.9ポイント下回っている。	･ことわざ･慣用句の意味理解にとどまらず、対話や作文での活用場面を意識させた授業を展開し，長期的に定着を図る。 ･朝の会や国語以外の場面でも言語文化に触れる機会を拡充する必要がある。
話すこと・聞くこと	●本領域の平均正答率は，81.2%で，県の正答率を2.2ポイント下回った。 ○自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では平均正答率が85.0%で，県の正答率を0.1ポイント上回った。 ●｢話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ｣設問の平均正答率は，79.7%で，県の正答率を4.2ポイント下回っている。	･話し合い活動に｢要約｣や｢問い返し｣の視点を加え、思考力と表現力の両面を伸ばすようにする。 ･他者との対話を通して，自分の考えを深めたり，振り返ったりする活動を取り入れることで話すこと，聞くことの力を伸ばしていく。
書くこと	●本領域の平均正答率は，47.6%で，県の正答率を0.6ポイント下回った。 ○｢アンケート調査の結果から読み取ったことを一つ目の段落に書く｣設問では，正答率が45.1%で，県の正答率を6.5ポイント上回っている。 ●｢アンケート調査の結果を読み，二段落構成で文章を書く｣設問では，平均正答率は34.5%で，県の正答率を11ポイント下回っている。	･文章を書く機会を増やし，自分の書いた文章をお手本文と比較し書き直しを行ったり，他者と文章を読み合う活動に繰り返し取り組むことで，文章を書くことに対する苦手意識をなくせるよう継続して指導していく。
読むこと	○本領域の平均正答率は，68.5%で，県の正答率を3.4ポイント上回った。 ○｢傍線部の発言をした人物として，適するものを選ぶ｣設問では，平均正答率が70.8%で，県の正答率を7.9ポイント上回った。 ●｢傍線部の言葉が指す内容として，適するものを選ぶ｣設問では，平均正答率が76.1%で，県の正答率を1.6ポイント下回っている。	･読解後に内容を整理･要約する活動を通して，読み取った情報を基に自分の考えや感想をもったり，伝えたりする中で，内容を理解できるようにする。

宇都宮市立富士見小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.2	63.0	63.3
	図形	67.3	69.2	68.3
	変化と関係	52.5	54.8	55.0
	データの活用	70.6	73.1	72.3
観点	知識・技能	59.8	62.3	62.1
	思考・判断・表現	67.6	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

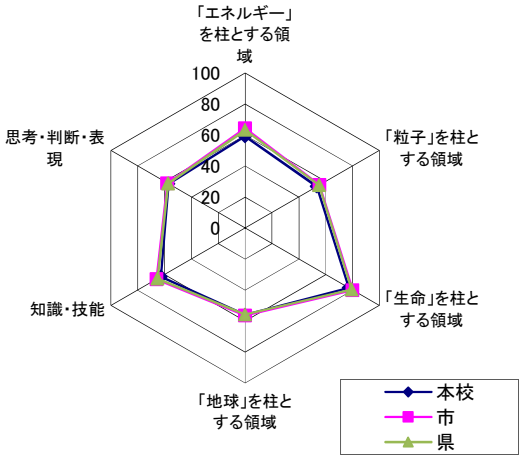
○良好な状況が見られるもの　・課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本領域の平均正答率は61.2%で，県の正答率を2.1ポイント下回った。 ○「式の意味を表したものについて，正しい文章を選ぶ」設問の平均正答率は80.5%で，県の正答率を5.9ポイント上回った。 ●「小数第一位÷整数＝小数第一位の計算」の平均正答率は，47.8%で県の正答率を8.6ポイント下回っている。	・基本的な技能の向上を目指して，朝の学習や家庭学習などの時間を活用し，繰り返し練習問題に取り組ませる。 ・小数や分数の計算では「どこに注目するか」を明確にする言葉掛けやミニテストの活用を継続して行い，習熟を図る。
図形	●本領域の平均正答率は67.3%で，県の正答率を1ポイント下回った。 ○「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ」設問の平均正答率は72.6%で，県の平均を1.9ポイント上回った。 ●「立方体と直方体の違いを選ぶ」の平均正答率は82.3%で，県の平均を3.6ポイント下回っている。	・身近な物の長さや角度を実感できるような活動や，具体物を用いた活動を取り入れた授業を展開する。 ・図形モデルを用いて，立体の構成要素の確認と構成要素から立体を見分ける活動を充実したり，繰り返し行ったりする。
変化と関係	●本領域の平均正答率は52.5%で，県の正答率を2.5ポイント下回った。 ●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」の平均正答率は46%で，県の平均を4.8ポイント下回った。 ●「割合を使った長さの求め方を説明する」の平均正答率は38.1%で，県の平均を1.7ポイント下回った。	・表や図を活用し，数量の関係を「見える化」する活動を充実する。 ・説明の際に使う用語や書き出しの文を提示するなど，説明を書くことに慣れさせる活動を授業に取り入れる。
データの活用	●本領域の平均正答率は70.6%で，県の正答率を1.7ポイント下回った。 ○「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る」設問の平均正答率は71.7%で，県の平均を0.4ポイント上回った。 ●「二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える」設問の平均正答率は66.4%で，県の平均を5.9ポイント下回った。	・データの扱いでは表→グラフ→読み取り→発言・記述の流れを意識した指導を他教科でも行い，継続的に指導していく。 ・ミニ調査や学校生活のデータを用いた体験型学習を取り入れ，理解を深める。

宇都宮市立富士見小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	59.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	53.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	77.2	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	56.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	62.8	66.0	65.3
	思考・判断・表現	57.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　・課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●本領域の平均正答率は59.2%で県の正答率を4.0ポイント下回った。 ○「乾電池の向きを入れ替えた際の，簡易検流計の針の振れ方を示した図を選ぶ」設問の平均正答率が64.0%で県の正答率を0.9ポイント上回った。 ●「乾電池のつなぎ方の名称を答える」設問の平均正答率が59.7%で県の正答率を7.6ポイント下回った。	・乾電池2このつなぎかたの学習では，直列つなぎと並列つなぎの意味を正しく理解し，繰り返しその言葉を使って説明するなど，基礎基本の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の平均正答率は53.5%で，県の正答率を1.6ポイント下回った。 ○「温度による水の体積の変化を空気の場合と比較して答える」設問の平均正答率が71.9%で県の正答率を2.9ポイント上回った。 ○「水を冷やす実験について，提示された予想に沿った結果を示すグラフを選ぶ」設問の平均正答率が60.5%で県の正答率を3.6ポイント上回った。 ●「温められた空気の動き方を答える」設問の平均正答率が32.5%で県の正答率を6.1ポイント下回った。	・空気や水の性質についての学習では，実験動画やアニメーションなどの教材を活用し，視覚的に理解ができるようにする。 ・学習した内容が，生活のどのような場面で見られたり生かされたりしているかを紹介することで，児童の興味・関心を高め，得られた知識と日常生活が結び付けられるように工夫をする。
「生命」を柱とする領域	●本領域の平均正答率は77.2%で，県の正答率を2.1ポイント下回った。 ○「ヘチマの成長記録が春夏秋冬の順に並んでいるものを選ぶ」設問の平均正答率が89.5%で県の正答率を1.4ポイント上回った。 ●「骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ」設問の平均正答率が35.1%で県の正答率を6.9ポイント下回った。	・実験や観察の結果から分かったことを考える時間を十分に確保するとともに，友達と話し合って考える場を設定し，自分の考えを根拠を明確にして説明する活動を取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は56.0%で，県の正答率を0.2ポイント上回った。 ○「月が見える位置を示した図として適切なものを選ぶ」設問の平均正答率が72.8%で県の正答率を3.1ポイント上回った。 ○「水がしみこみやすい粒の特徴を答える」設問の平均正答率が84.2%で県の正答率を1.6ポイント上回った。 ●「雨の日の気温を示したグラフを選び，選んだ理由を答える」設問の平均正答率は60.5%で，県の正答率を3.4ポイント下回った。	・表やグラフなどの資料を提示し，それらを読み解く活動を設定するとともに，資料から分かることを生かして自分の考えを表現できるように指導していく。

宇都宮市立富士見小学校 第５学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

【家庭での学習】について
○「学習して身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」設問の肯定割合は98.4%で，県平均を3.0ポイント上回った。これは，総合的な学習の時間などで，キャリア教育の視点を取り入れ，日常生活と将来の仕事を繋げる指導ができたからだと考えられる。今後も，児童が将来を見据えて主体的に学べるような工夫を継続していきたい。
○「学校の宿題は，自分のためになっている」設問についての肯定割合は94.1%であり，県平均と同程度であった。特に，「家で，学校の宿題をしている」設問の肯定割合は97.5%であり，県平均を2.4ポイント上回った。家庭学習の習慣が身に付いていると考えられる。今後も，進んで宿題に取り組めるように支援していきたい。家庭と連携しながら，学びが深まる宿題のあり方について工夫を重ねていく。
●「家で，学校の授業の復習をしている」設問についての肯定割合は51.2%で，県平均を15.6ポイント下回った。また，「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」設問の肯定割合は70.6%で，県平均を4.4ポイント下回った。自主学習に取り組んでいる児童がいる一方で，授業内容を振り返ったり，学習したことを確認したりする習慣が身に付いていない児童もいることがうかがえる。今後は，予習や復習の大切さについて再度確認し，自主学習の取り組む内容について指導することで，より計画的に学習を進められるようにしていきたい。
【学校での様子】について
○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」設問についての肯定割合は96.7%で県平均を1.8ポイント上回った。このことから，児童は自分の仕事に責任をもって一生懸命働いている様子がうかがえる。今後も児童会活動や学校行事などの機会を通して，高学年としての責任や役割を意識させながらより一層成長できるよう支援していきたい。
●「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」設問の肯定割合は77.3%で，県平均より0.7ポイント下回った。また，「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができる」設問の肯定割合は75.6%で，県平均を2.7ポイント下回った。このことから，話合い活動が苦手な児童がいることがうかがえる。ペアやグループなどの人数や組み合わせを工夫したり，何について話し合うのか，何を目的とするのかを明確にしたりすることで，一人一人が進んで話合い活動に参加できるような授業展開をしていきたい。
【自分自身のこと】について
○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」設問の肯定割合は92.4%で県平均を1.3ポイント上回った。また「自分がもっている能力を十分に発揮したい」設問の肯定割合は90.8%で県平均と同じであった。このことから，自分の個性を発揮し，友達とのよりよい関わり方をもちたいと感じている児童が多いことがうかがえる。今後も，当番や係活動などの機会を設定し，それぞれのよさを発揮しながら友達との関わりをもてるように支援していきたい。
●「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがある」設問の肯定割合が95.8%で県平均を2.4ポイント上回った一方で，「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している」の肯定割合は74.8%で県平均を2.3ポイント下回った。このことから，粘り強く挑戦したことでの成功体験はあるものの，最後までやり遂げようとせずに諦めてしまう児童がいることが考えられる。今後は，児童がうまくできたことや根気強く取り組めたことを称賛し，何事にも挑戦しようとする児童の育成していきたい。

宇都宮市立富士見小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施。 ・AI型学習ドリルを活用した，個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着 ・年に2回の家庭との連携を図った家庭学習強化週間の実施。	・4年生については，国語・算数・理科の知識・技能，思考・判断・ 表現のどちらにおいても，県の正答率をやや上回った。 ・5年生については，国語の思考・判断・表現は県の正答率を上回ったものの，他の教科・観点については，県の値と同程度か，下回った。 ・「家で，学校の宿題をしている」の5年生の肯定回答が，県の値を2.4ポイント上回った。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・自分で問いがもてるような発問や学習活動の工夫 ・解決への見通しをもたせ，思考し，考えをまとめられるような時間の確保 ・自分の考えと友達の意見を比べながら聞いたり，そのうえで自分の考えを伝えたりできるような場の設定 ・「何を学んだのか」を実感させることのできる振り返りの工夫	・「授業では，自分の考えを発表する機会があたえられている」という設問において，4年生の肯定回答が県の値を2.7ポイント上回っている。 ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問において，4年生の肯定回答が県の値を2.7ポイント上回っている。
・個に応じた指導の推進による学習意欲の向上	・興味・関心をもって取り組める学習課題の設定・教材の開発 ・児童のよさや努力したことに対する積極的な承認や称賛 ・ICT機器の効果的な活用	・「勉強をしていて，おもしろい，楽しいと思うことがある」という設問において，5年生の肯定回答が県の値をを1.6ポイント上回っている。 ・「本やインターネットなどを利用して，勉強に関するじょうほうを得ている」という設問において，4年生の肯定回答が県の値を7.8ポイント上回っている。